

家畜損害防止関連情報

◆快適温域で風邪予防

秋も深まると朝夕の冷え込みがきびしくなります。とくに、これからの環境温度の著しい高温または低温は、牛にとって体温調節の大きな負担、または失調の原因となって、風邪が多発する時節です。

ほ乳子牛にとって快適に過ごせる温域は13度～25度、成牛では4度～20度です。また、普通の飼育管理のもとで正常に発育できる最低温度は、ほ乳子牛で5度、成牛でマイナス10度といわれています。

私たちが寒いと感じる気温が、むしろ牛にとっては快適な温度なのです。寒いからといって、窓を全部閉ざしていませんか？翌朝、牛舎の天井、窓ガラスに水滴がついていませんか？このような牛舎環境で生活する牛は、風邪にかかりやすいのです。風邪から牛を守るには、牛舎内の湿度の低下（敷料交換と牛床の乾燥）、牛舎の換気、すきま風の防止、北風の遮断などに留意することです。